

One Earth Guardians 育成プログラム

2023年度 活動報告書

機構長ご挨拶

日ごろ、One Earth Guardians 育成プログラムの活動にご支援とご協力を賜り、深く御礼申し上げます。

2024 年春、One Earth Guardians 育成プログラムは 7 期生となる受講生を迎え、在学中の受講生は大学 1 年生から博士課程の大学院生まで 64 名となりました。大学を巣立った卒業・修了生も 29 名となり、それぞれの立場で One Earth Guardians を志し続けてくれていることを頼もしく感じています。

また、2022 年度より始まった高校生・大学 1-2 年生対象の「Good Life on Earth」も今夏に 3 期生を迎え、プレイヤーとして活動する若者たちが、自らの「好き」を追求する場としてさらなる充実を見せています。

共に活動してくださる人々や地域もさらに広がりを見せています。当初からつづく「ワン・アースロジー 実学研修」では、学生が自ら提案し、関係する組織や外部の方々を巻き込んで主体的に行う活動も増え、国内外のさまざまな地域とのつながりが生まれています。

人類が地球上のあらゆるものと共存共生していける世界をつくるためには、立場を超えて、ともに学び合い、考え、行動を起こし続けることが重要です。100 年後の地球のために貢献できる人材を輩出していけるよう、これからも努力を重ねて参ります。

One Earth Guardians 育成プログラムを今後とも末永く応援いただけますよう、心よりお願い申し上げます。



2024年10月
東京大学 大学院農学生命科学研究科長・農学部長
One Earth Guardians育成機構長

中嶋康博

アドミニストレーターより

私たちアドミニストレーターは、皆さまとの窓口となり、日々のプログラムの活動の企画や運営、サポートをしています。さまざまな方が集まり、地球の未来のために共に行動を起こす場をつくりつづけるために、ひきつづき皆さまとご縁を紡いでいきたいと思ひます。

東京大学 One Earth Guardians 育成機構 アドミニストレーター 中西 もも・岩崎 茜・山口 空



ご寄附への御礼

皆さまにいただきましたご寄附は、実学研修の実施のために必要となる交通費、宿泊費、調査費などを受講生に支援する実学研修補助費制度のほか、セミナー等における講師の招へいや、社会への発信や交流の場の構築などのさまざまな形で大切に活用させていただきました。皆さまのご支援に、心より感謝申し上げます。

プログラムを紹介する2本の動画、「【理念編】かかわる人々の“語り”から描く」と「【活動紹介編】社会とのかかわりのなかで学ぶ」を公開しました。日々の活動の様子を伝えるSNSもぜひフォローしてください。



YouTube 【理念編】(2023.11公開)



YouTube 【活動紹介編】(2024.03公開)



YouTube



Facebook

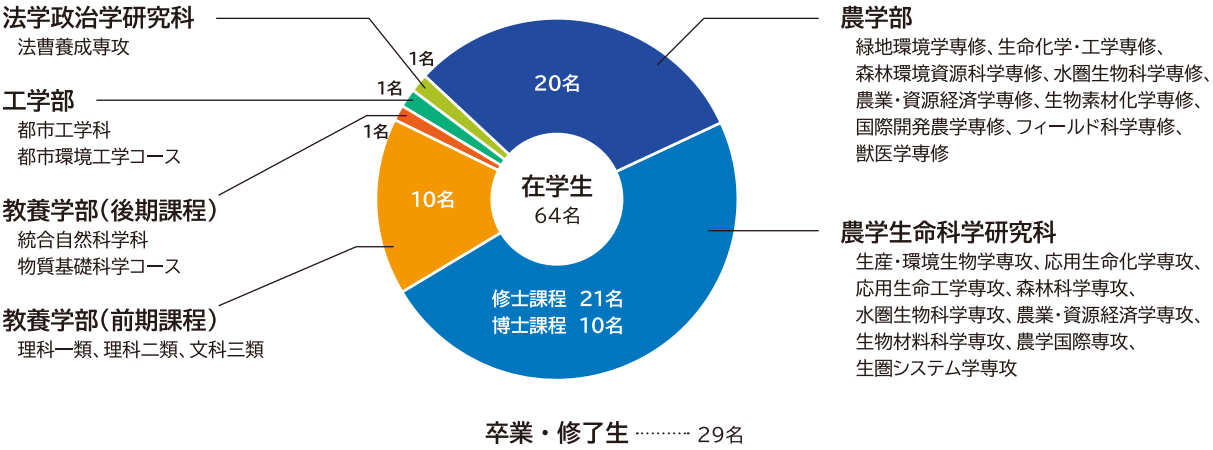


Instagram



note

One Earth Guardians育成プログラムは、2018年度から農学部を1期生に迎え、2022年度(第5期)からは全研究科・学部を卒業生に広げました。現在は、さまざまな専門分野の学生が参加し、教養学部前期課程の学生から博士課程の大学院生まで幅広い学年の受講生が在籍する層の厚さも特徴となっています。2023年度は、教養学部前期課程の1年生5名を含む、18名の6期生が新たに参加し、2024年4月、さらに教養学部前期課程の1年生5名を含む16名の7期生が参加しました。



OEGs受講生の進路

株式会社雨風太陽 / 出光興産株式会社 / 株式会社エスネットワークス / NHK / 環境省 / キーコーヒー株式会社 / 株式会社サンケイエンジニアリング / 株式会社シグマックス / 株式会社スマートブルー / 住友化学株式会社 / 一般社団法人 全国農業協同組合中央会 (JA全中) / 東京大学 / 東京都庁 / 株式会社日本総合研究所 / 日本たばこ産業株式会社 (JT) / 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 / 農林水産省 / 株式会社日立ハイテク / マッキンゼー・アンド・カンパニー / 株式会社リクルートホールディングス / 林野庁 など

OEGs受講生の声

5期生 法学部

歴史の中での様々な進歩の恩恵を受けて現在の豊かな暮らしがあるのにも関わらず、その進歩を止めて現状維持に努めることは、変化していく社会に対応できず何の解決にもならないのではないかと気づきました。そして、地球上のあらゆる生物が共存共生する未来を実現するという OEGs の理念は、今ある自然を保護することによる現状維持ではなく、人間と他の生物にとって現状よりも良い地球を目指すことと解釈すべきなのではないかと思うようになりました。一方で、人間と生物が未来も共存できるようにするために生物の生息している環境を破壊または変造して、美しさや歴史性などの内在的な価値がある自然が失われてしまうのを手放しに是認することはできないと思っています。

5期生 教養学部 理科二類

これまでは大きな社会課題(環境汚染、気候変動、食糧問題など) にどのようにアプローチするかを考える時、断片的に情報を集めるだけで体系的に捉えられないことが多かった。しかし実学研修を通じて、新しい取り組みの発案から実用化を目指すまでの一貫した流れを経験したことで、検討すべき要素を具体化できたと感じる。

6期生 教養学部 理科二類

実学研修を通して実際に体を動かすのと動かしえないのでは、解像度が全く違うことに気づいた。

6期生 農学部 生命化学・工学専修

これまでは、地球温暖化、生物多様性の喪失、森林の減少、気候変動など世間で騒がれる問題に対して漠然と危機意識を持つばかりであり、どうにもできないという無力感を感じるが多かった。しかし実学研修を経て、このような感覚は、知識として知ってきた環境・社会課題をそれぞれに独立した等価の事柄として認識し、それらが繋がっていることは感じつつも因果関係や影響する範囲によって整理していなかったこと、また、自分の専門性や社会的な立ち位置が定まっていなかったために、手の届く範囲とそうでない範囲の境が曖昧であったことに由来するのではないかと考えるようになった。

5期生 農学部 国際開発農学専修

何か活動するにあたり、「楽しさ」をもっと大切にしたいと思うようになりました。今までの私は、「何とかしなければ」という使命感など、どちらかというネガティブな動機によって活動していました。しかし今年度の OEGs 内外の活動を通して、自分が楽しいと感じるからこそ活動を続けられるし、楽しんでいる人の周りには自然と共感する人が集まってくるということに気づきました。

5期生 農学部 森林環境資源科学専修

社会課題を解決するためにあるべき制度や体制を議論して解を出すことと、それを社会実装することでは全く異なる技能が必要であることを知りました。

4期生 農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻

企画・運営の立場で One Earthology Seminar に携わり、参加者にどのようなことを考えてほしいのかを考え、参加者の議論が協道に逸れたり途中で詰まったりしないようにワークショップを設計していくのは新鮮な体験だった。「どのような問いを、どのような形で投げかけ、その後どのように考えてほしいのか」というところを具体的にすることがサイエンスコミュニケーションに重要なのではないかと、いうことに気づくことができた。

3期生 農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻

大学入学前から耕作放棄地の増加や農業を続ける方の負担の増大を肌で感じる中で、農業者が無理なく農業できるような社会にすることに貢献したいという意識をもって、様々な活動に携わってきました。卒業後も、農村のコミュニティの中の方々だけではなく様々なバックグラウンドをもつ方々と関係を作ろうと思います。本プログラムがそう思うきっかけの一つになりました。

1期生 農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻

科学的な発見を実際に技術として活用するにあたっては多くの障害があることを実感した。実用化するにあたって生じる障害を乗り越えていくには、現場の生産者と協力して、試行錯誤しながら一つ一つ解決していくしかないので、社会実装の大変さが少し見えたような気がした。

「ワン・アースロジー」実学研修

社会とのかかわりの中で学ぶことを通し、科学の基礎力と俯瞰力を課題解決につなげる力を培うため、協力企業・NPOなどと受講生が共に取り組むインターンシップです。教員も交えながら産業界や社会の実課題に向き合い、協働創出の場ともなります。

OEGs 認定科目「ワン・アースロジー I・II・III」において実施します。

2023年度中は13件（参加学生29名）が進行しました。学生が自ら提案し、関係する組織や外部の方々を巻き込んで主体的に行う活動も増えてきています。

プログラムアレンジ



株式会社重次郎 中屋敷ファーム

地域における循環型畜産の取組み現場を通して、肉牛生産の持続可能性を考える

実施期間:2023.07 - 2023.12 報告会:2024.12.14



住友林業株式会社

「森林との持続可能な未来を考える」調査および提案

実施期間:2023.07 - 2024.03 報告会:2024.3.1



株式会社ダイセキ

サーキュラーエコノミー実現に向けた微生物利用の可能性を探る

実施期間:2023.07 - 2024.03 報告会:2024.3.1



株式会社chicabi・株式会社千葉牧場

科学と哲学から考える、動物・人間・自然

実施期間:2023.07 - 2024.03 報告会:2024.3.1



東洋水産株式会社

『生産活動における食品ロス削減とリサイクルの模索(2023)』～食品残渣や廃プラスチック等の再資源化～

実施期間:2023.07 - 2024.02 報告会:2024.2.21



公益社団法人MORIUMIUS

自然の中で循環する暮らしをこども達に届け、関係人口を育みながら町の未来をつくる

実施期間:2023.07 - 2024.02 報告会:2024.2.21

受講生発の企画



1期生 櫻井建吾さん ワン・アースロジーII / アクプランタ株式会社

Skeepon使用時における植物体の干ばつ応答性を時系列で評価する

実施期間:2019.04 - 2023.06 報告会:2024.7.12



熱海の森プロジェクト OEGs受講生有志/認定NPO法人環境リレーションズ研究所

里山林の再生に向けたフィールド実践 ～森林の多面的機能をプロデュースする人材養成～

実施期間:2022.10 - 2024.02 報告会:2024.3.1



1期生 室智大さん ワン・アースロジーII

人々の身近な生物環境に対する認識の向上を目指して:自然観察会の効果検証と昆虫-植物相互作用データベースの構築

2022.12 - 進行中



3期生 高田瑛仁さん ワン・アースロジーII/アステナミネルヴァ株式会社

研究者の視点を持った関係人口の創出で奥能登の課題解決を図る

実施期間:2023.02 - 2024.03 報告会:2024.2.21



4期生 津旨まいさん・金子竣亮さん ワン・アースロジーII/株式会社ワークライフスポーツ

農学×サッカー サッカークラブを活用した地域資源の持続可能な利用を考える

実施期間:2022.04 - 2024.03 報告会:2024.2.21



4期生 松岡怜さん ワン・アースロジーII / 公益財団法人オイスカ

太平洋島嶼国におけるNature-based Solutionsの実現に向けた活動(仮)

2023.05 - 進行中 (写真) 公益財団法人オイスカ・フィジー マングローブ林再生の取り組み



5期生 志賀智寛さん ワン・アースロジーII / NPO法人福島ギフターズ

同世代を巻き込んだクラフトビール開発による飯舘村の復興支援

2023.04 - 進行中

One Earthology Seminar

100年後のありたい姿やどんな地球に生きていたいかを思い描きながら、学び、話し、考えるOne Earthology協創の場。学生・教員・企業等等、異なる背景を持つ参加者が同じテーブルにつき、多様な視点を交えて対話するワークショップです。 2023年度は「生命」「海」「虫」の3テーマで開催

LUC Lecture

Learn and Unveil through Conversation — Spotlight —

学内外の講師を招いたレクチャーと意見交換を通じて、これまで見ていなかったこと・知らなかったことに目を向け、考える「=LUC(光)をあてる」ための学びの場。2023年度はOEGs受講生が発案・企画するLUC Lecture -Spotlight-を開催しました。

公開シンポジウム

100年後の地球のために、今、広く皆さまと考えたいことをテーマに、どなたでもご参加いただけるシンポジウムを開催しています。

コラボレーション企画

企業やプロジェクトとのコラボレーションにより、特定のテーマや課題を深掘りし、協働とOne Earth Guardiansとしての提案につなげます。受講生のアイデアをもとにした製品や、映画プロジェクトとの連携など多彩な活動が行われています。

活動の発信

東京大学ホームカミングデイ、五月祭、駒場祭などに出席、学内外への発信の場に積極的に出ています。また、新たな紹介ムービーの制作・公開など、プログラムの理念や活動を広く伝える取り組みをつづけています。

その他の活動

修士課程以上の受講生がそれぞれの研究内容を紹介する OEGs Lightning Talk やアート脳ワークショップの他、受講生自らが企画し、実施する活動も始まっています。

2023.4.10 & 4.24
春の経済学座談会 ―経済学を通して世界を見ると―
Day 1: 経済学を通して見た世界
Day 2: 自分の世界と比べてみよう
2期生の宇都宮涼さんが発起人となり、農業・資源経済学専攻の他のメンバーも協力。経済学に馴染みの薄い他の受講生たちに経済学の基礎を解説し、さまざまな課題をどのように扱うのかを考えながら議論した。



2023.4.12
映画『せかいのおきく』上映と農学生命科学研究科の教授らによる講演
江戸の暮らしに満ちるサーキュラーエコノミー
登壇者: 原田 満生 氏 (映画美術監督 / 『YOIHI PROJECT』代表 / 『せかいのおきく』企画・プロデューサー・美術)
松本 武祝 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
五十嵐 圭日子 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
松本教授による講演と映画『せかいのおきく』上映後、企画・プロデューサーである原田氏、バイオエコノミー監修の五十嵐教授も交えクロストークを実施。東京大学の学生や教職員、学外者など計128名が参加した。



2023.4.26
OEGsオリエンテーション2023
18名の6期生を新たに迎え、プログラムの説明やセルフプレゼンテーションなどを行った。受講生と教職員を合わせ約70名が参加。



2023.4.26
農学部ガイダンス「農学フェア2023」
駒場キャンパスで開催される1-2年生向けの農学部ガイダンス「農学フェア2023」にてOEGsもブース出展。



2023.5.10
エコツツエリア協会協力企画
“めぐる”ってなんだ？
食べる、つかう、それから―生活からみつめる循環型社会
講師: 関根 久仁子 氏 (環境カウンセラー / カムフル株式会社代表)
高橋 伸一郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
協力: エコツツエリア協会
循環型社会の実現に向けて何ができるかを考えるワークショップを開催。会場である大丸有エリアの3×3Lab Futureの会員や一般参加者とOEGs受講生が参加。



2023.5.13-14
第96回 五月祭
OEGs受講生有志が展示企画「100年後の地球を考えよう」を出展。プログラムの活動紹介や、これまでの活動の成果物などを展示。Good Life on Earth の紹介も行った。



2023.5.24
OEGs Lightning Talk
修士1年以上の受講生が、自分の研究内容を2分でプレゼンする新企画。それぞれの“科学者”としての専門性やバックグラウンドをシェアして学び合った。受講生や教員ら約70名が参加、16名がプレゼン。



2023.5.31
0 to 1 Workshop: アート脳ワークショップ
感性をひらいて、アート脳をやわらかく鍛える株式会社アサ代表の青柳美どり氏を講師に迎え、アート作品鑑賞を通じて気づきを得て、自己受容や他者理解を行う「対話型鑑賞」などを行った。新たに受講生となった6期生が参加。



2023.7.5
映画『せかいのおきく』制作メンバーと受講生との座談会
科学者×映画の力を語ろう ～YOIHI PROJECTとの座談会
映画人と自然科学者が連携して100年後の地球に『良い日』を伝える活動を行う『YOIHI PROJECT』のメンバーと、OEGs受講生とが、人の心を動かす伝え方や、研究の魅力的な可視化などをテーマに意見交換する座談会を開催した。



2023.7.26
One Earthology Seminar 2023
100年後のいのちを見つめる 1st round
「あらゆる生命との共存共生 ―そこにいるのは、だれ?―
コーディネーター: 岩崎 茜 特任助教
企画・運営学生: 桑田 向陽
“共存共生”に含まれるのはどのような生命なのか。生態系への積極的介入を試みる施策が打ち出された仮定のもと、病原体や遺伝子改変生物も含めた他の生命との向き合い方について考えた。



2023.8.3
東京大学オープンキャンパス2023
講演・説明企画「農学の枠を超えていく『地球医』になろう!」として、OEGs受講生たちが活動の様子を紹介。また、高橋 伸一郎 教授による模擬授業として「One Earth Guardians 育成プログラムへのいざない」が行われた。

2023.8.23
One Earthology Seminar 2023
100年先の海へ漕ぎだす 1st round
「Under the Sea～見えないものとのつながりに意識をそそぐ」
コーディネーター: 安田 仁奈 教授
企画・運営学生: 小坂 七海
保全のための第一歩は、知り、理解して、愛着を持てるようになること。陸上に生きる人間からは直接見えにくい海とのつながりを、楽しみながら感じるための展示やインスタレーションを企画。



2023.9.27
One Earthology Seminar 2023
虫と共に生きる惑星(ほし) 1st round
「虫嫌いはなぜ? まっさらな目で虫を見つめる」
コーディネーター: 木内 隆史 准教授
企画・運営学生: 津旨 まい、森 健人
生態系において重要な役割を担う昆虫が数を減らしているが、その背景には、人々の無関心と「虫嫌い」があるとされている。忌避感情を乗り越え、昆虫とその生育環境に関心を高められるような仕掛けづくりを考えた。

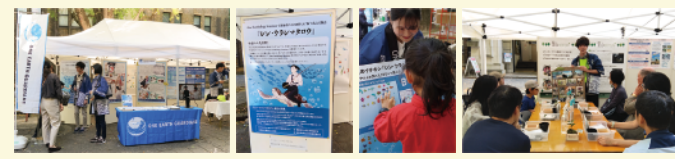


2023.10.7
One Earth Guardians 育成プログラム 公開シンポジウム2023
ネイチャーポジティブな未来へ～人の暮らしと生物圏の折り合いをつけるためには
講演1 | ネイチャーポジティブ: 持続可能な社会の再定義
橋本 禪 (東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授)
講演2 | 企業から見たネイチャーポジティブに向けたアプローチ
永野 友子 氏 (富士通株式会社 Solution Service Strategic本部 SX事業企画統括部 オファリングデザイン部 マネージャー)
講演3 | 気候変動によって急激に変化する水面下の世界
～変わりゆく沿岸生態系とどう付き合っていくのか?
安田 仁奈 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
パネルディスカッション
パネリスト: 伊藤 俊哉 氏 (住友林業株式会社 森林・緑化研究センター マネージャー/ 住友林業緑化株式会社 生物多様性推進室長 兼 技師長)
永野 友子 氏、橋本 禪 准教授、安田 仁奈 教授、山口 空 (OEGs2期生)
モデレーター: 高橋 伸一郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
対面でも参加いただける公開シンポジウムとしては5年ぶりの開催。217名(会場78名、オンライン139名)の方が参加した。アーカイブ動画をOEGs公式YouTubeでご覧いただけます。



アーカイブ動画

2023.10.21
第22回 東京大学ホームカミングデイ
グリーン・トランスフォーメーション関連プログラムとして、本郷キャンパス銀杏並木にブース出展。One Earthology Seminar 2022「海」で創作された4パターン『シン・ウラシマタロウ』の展示と投票企画、受講生有志による「熱海の森再生プロジェクト」紹介などを行った。家族連れなど多くの方が訪れ、投票には290票の参加があった。



2023.11.15
LUC Lecture Spotlight 02
エネルギー生産と食料生産、そして農村の未来を考える
～営農型太陽光発電を通じて
馬上 丈司 氏
(千葉エコ・エネルギー株式会社 代表取締役)
企画学生: 津旨 まい、加藤 彩花
営農型太陽光発電を通じた、食料生産とエネルギー生産の両立をテーマに講演。学外の方を含めた40名がハイブリッドで参加し、参加者同士のディスカッションも行った。



2023.11.18-19
一般財団法人 TOKYO FOOD INSTITUTE 主催
Future Food Innovation Workshop 2023
3年つづけて受講生が参加。今回は「再生可能な食卓」をテーマに、他大学の学生と合同チームで新商品のアイデアを考えた。グランプリとなったアイデアについては、商品化に向けた開発へ進む。



2023.11.29
One Earthology Seminar 2023
100年先の海へ漕ぎだす 2nd round
「深海へ行こう! -未知と魅惑の世界と、私たちのつながりをさぐる」
コーディネーター: 安田 仁奈 教授
企画・運営学生: 小坂 七海
未知や魅力も多い一方で、人間活動の影響も無視できない深海。安全かつ安価に深海旅行ができるようになったと仮定して、人々が深海の100年後の未来に想いを馳せられるような深海ツアープランを考えた。



2023.12.20
One Earthology Seminar 2023
虫と共に生きる惑星(ほし) 2nd round
「ものすごい昆虫をソウゾウする ―地球を救う虫を探しに」
コーディネーター: 木内 隆史 准教授
企画・運営学生: 津旨 まい、森 健人
私たちが学び、バイオメテックスとして模倣することで、地球課題を解決できるかもしれない未知の昆虫の姿や生態、生息場所を想像/創造。昆虫のもつ力を再認識するとともに、生息環境との関わりを考える機会とした。



2023.12.26
都立新宿高校とOEGs受講生とのディスカッション
都立新宿高校の生徒18名が農学部研究室見学のために来学し、OEGs受講生とのディスカッションを行った。人類が引き起こした課題とその解決のために自分が参加できる方法について議論し、発表した。

2024.3.5-7
International Symposium on
“Signals for Human, Animal and Planetary Health: From Metabolites To Biological Interactions”
主催: 高橋 伸一郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
中西 もも 准教授が登壇。“What can we do for the Earth in the next 100 years?”を講演し、OEGsプログラムの理念や活動を紹介した。

2024.3.21
OEGs受講生 門出を祝う会
大学を巣立つ2～5期の受講生11名の「門出を祝う会」を開催。社会に出てOEGsを志してほしいという思いを込め、『Invitation to Resume the Course』を渡した。



JEJアステージ株式会社とOEGs受講生らとの交流プロジェクト
プラスチック製品の企画・製造を主事業とする JEJアステージ株式会社(新潟県三条市)とOEGs受講生らが3回にわたり交流を行い、工場見学や社員の方々とのディスカッションを通して、プラスチックとの付き合い方や、これからの素材やものづくりについて共に考えた。

2023.6.7
第1回: 弥彦工場見学&ディスカッション
プラスチック製品の製造現場を見学し、製品の企画工程や環境配慮商品について学んだ。社員の方とのディスカッションでは、プラスチックならではの強みや課題に目を向け、これからのものづくりに必要とされる素材の機能や性質を考えた。



2023.9.5
第2回: 本社工場見学&ディスカッション
リサイクルに注目し、工場での回収と再成形プロセスを見学し、回収やルール作り、素材の分別の重要性などを話し合った。



2024.1.31
第3回: プロダクト提案&ディスカッション
「デザイン・スプリント」を通じて学生が新たなプロダクトの提案をプレゼン。自分にも環境にもいいと思える収納用品のアイデアをもとに、社員の方からのフィードバックや質問を受けてディスカッションを行った。



参加者の声

JEJアステージ社員

- ・プラスチックのもたらす環境負荷に関して向き合っていかなければならないこともそうですが、一方でプラスチックは非常に都合の良い(安い・軽い etc.) 素材であることも再認識させられる内容でした。
- ・自身はコストや現実の事ばかりを考えていたが、学生達はどうしたらプラスチックが悪ではなく善になるかという考えを持っていて素晴らしいかった。

受講生

- ・業界内では情報を共有できているのかと思っていましたが、アカデミアと民間の分断が大きいということを感じ、繋げる仕組みづくりがあれば面白いだろうと考えました。
- ・私たちの生活をより便利なものにしてくれるプラスチックの功罪を人間がどうやって改善していくかが問題になってくると感じました。

高校生・大学生の「好き」を応援!

Good Life on Earth

2022年度に始動し、2年目を迎えた
「Good Life on Earth」の主な活動を報告します

Kick Off

7名のプレイヤーが2期生として加入



落合 来香さん
多摩美術大学 2年



小原 芽莉さん
高校 2年生



佐藤 楽さん
熊本県立熊本高等学校 2年



田中 美羽さん
青山学院大学 1年



中桐 真珠子さん
岡山県立岡山大安寺
中等教育学校 5年



樋野 葵さん
茨城県立竹園高等学校 2年



樋野 遥さん
茨城県立竹園高等学校 2年

2023年度採択者として7名のプレイヤーが加入し、2023年9月16日～18日に東京大学本郷キャンパスで2泊3日の「2期生キックオフ合宿」を開催。メンターによる講演や、グループワークを通じて参加者同士の理解を深めた。

また、研究室ツアーを実施して、工学部や農学部の実験室を見学。最終日には1期生も駆けつけて、2期生のアイデアについてディスカッションも行った。



Sessions

ZEISSコラボ「顕微鏡ワークショップ」等



全員参加型セッションのCROSSでは、アートを通して感性をひらく「アート脳ワークショップ」を開催。HONEでは、カルツァイス株式会社とのコラボレーションで「顕微鏡ワークショップ」を開催し、さまざまな顕微鏡の特徴や技術の歴史を学び、最先端の機器を実際に扱って「見える」世界を体験した。

また、「フィールドトリップin名古屋・豊田」でトヨタ会館・豊田中央研究所・トヨタ産業技術記念館を訪問。施設を見学し、関係者と交流した。



2023年度実施 全員参加型セッション

・10月14日
CROSS #3「アート脳ワークショップ」
講師：青柳 美どり 氏

・11月25日-26日
「フィールドトリップin名古屋・豊田」

・12月16日、17日
HONE#1「顕微鏡ワークショップ」
共催：カルツァイス株式会社

・12月23日
BUMP#3：「夢を追っていたら宇宙生物学者になっていた話」
東京工業大学 地球生命研究所
藤島 皓介 先生



Good Life
on EARTH

Good Life on Earthは、高校生・高専生・大学1-2年生が自身の夢になれる“何か”を切り口とした、地球の未来につながるアイデアの実現をめざすプログラムです。東京大学One Earth Guardians育成機構と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金が、共同で実施しています。

Players' Activities

それぞれのテーマで「好き」を追求

プレイヤーが取り組むのは、自身が夢になれる“何か”を切り口としたアイデア。ファッション、食、酵素、クマムシ、犬、プラスチック、昆虫...それぞれのテーマで研究・開発を行い、「好き」を追求している。



2023年度が活動2年目となる1期生は、実験やプロトタイピングなど、それぞれのプロジェクトを前に進めた。2期生は、メンターやアカンパニストとのミーティングを重ねてアイデアに関する調査やアイデアのブラッシュアップを行った。

Presentations

中間発表・年度末プレゼンを実施



2023年11月と2024年3月の2回の報告会を開催。1期生・2期生合同で行い、メンターやプログラム関係者に向けてそれぞれのプロジェクトの現在地を発表するとともに、悩みを相談したり、プレイヤー同士互いにフィードバックし合うなどした。

2024年3月の「年度末プレゼン」では、プレイヤーは1年間の活動を報告し、今後のビジョンや活動プランを発表した。



2023年度実施 報告会

・2023年11月19日
「2期生中間発表・1期生進捗報告会」
弥生講堂アネックス セイホクギャラリー

・2024年3月23日
「年度末プレゼン2023」
伊藤国際学術研究センター 中教室

WEBサイト



ぜひフォローしてください



活動の様子はGood Life on Earth
公式SNSでも発信しています